

第 21 回 ICID 総会への参加報告（開催地：イラン・イスラム共和国、テヘラン）

資源循環工学研究領域 水資源工学担当 皆川裕樹

1. ICID とは

国際かんがい排水委員会(International Commission on Irrigation and Drainage : 以下、ICID) は、加盟国による灌漑排水・洪水管理などの適切な水管理技術の開発や情報交換、持続可能なかんがい農業の促進により、世界的な食料供給の向上や農村の貧困解消等を目的とした国際組織です。日本も古くから ICID に加盟しており、農林水産省内に ICID 国内排水委員会が設置され、その活動支援のために日本 ICID 協会が設立されています。

2. 第 21 回 ICID 総会への参加

平成 23 年 10 月 15 日～23 日に、イラン・イスラム共和国のテヘランにおいて第 21 回 ICID 総会、第 8 回国際マイクロかんがい会議及び第 62 回 ICID 国際執行理事会が開催されました。ICID 総会は加盟国により 3 年に 1 度開催され、世界各国から水資源に関する専門家が多数参加し、かんがい排水・洪水管理分野を主題としたテーマについて討議します。今回の総会では、全体テーマに「食料安全保障のための水生産性」が掲げられ、それに関する 2 つのサブテーマ「水および土壌の生産性に関する課題」、「天水農業における水管理」について多くの研究発表が行われました。

農村工学研究所からは、私 외에도丹治上席研究員、内村上席研究員が参加し、丹治上席は水田向きの灌漑効率概念の拡張について、内村上席は高温障害等に対応する用水管理について、私は気候変動に伴う降雨パターン変化が低平地排水へ与える影響についてそれぞれ発表を行いました。さらに、FAO と ICID による灌漑の近代化に関するセミナーや、気候変動が土地・水資源に与える影響についてのシンポジウムなども開催され、参加者の間で活発な議論が交わされました。また、このような国際会議では、会議の合間のブレイクタイムも貴重な意見交換の場となります。

ICID 総会事務局の発表によると、総会には少なくとも 45 カ国から 600 人以上の参加申し込みがあり、当日はさらに多くの参加（1000 人以上）が予想されました。（参考 URL : <http://www.icid2011.org/> ）

なお、ICID との連携強化、水の利用・管理技術に係る国際的な研究活動の推進は、当所における第 3 期中期計画の一つとなっています。



▲ICID 総会の様子

3. イランあれこれ

イランは乾燥地のイメージが強かったのですが、同国北部のカスピ海沿岸では稲作も盛んだと聞きました。今回は滞在期間の関係もあり、農地や農業用施設を見る機会がなかったのが残念でした。

イランは非常に歴史のある国です。ICID 総会のウェルカム・パーティーでは、伝統楽器による演奏と踊りが披露され、参加者を楽しませてくれました。また、テヘラン市街には博物館や美術館が多くあり、イランの歴史について学ぶことができます。

中央のバザール（市場）は非常に活気があり、有名なペルシャ絨毯から食料品・日用雑貨などの様々なお店が所狭しと並んでいます。日本人に対して友好的で、歩いていると日本語で挨拶されたり、写真撮影を頼まれたりすることもありました。ナッツ類（ピスタチオ等）やドライフルーツ、サフランなどの香辛料が名産で、お土産にもよさそうです。



▲伝統楽器の演奏と踊りの様子



▲テヘラン市街の様子